

平成29年度に採択した課題 一覧

課題名	期間	研究代表者	所属	評価	研究評価委員会 総合コメント	継続の可否
短寿命α線核種の合理的規制のためのデータ取得による安全性検証と安全管理・教育方法の開発	2年	篠原 厚	大阪大学	A	今後の規制のためには貴重なデータになるので、緻密な計画を期待する。	継続
短寿命α核種等のRI利用における合理的な放射線安全管理のあり方に関する研究	2年	細野 眞	近畿大学	B	現地調査の詳細が不明なので、報告には調査の成果を具体的に示していただきたい。調査機関を増やす理由を明確にすべきである。	継続
加速器施設の廃止措置に係わる放射化物の測定、評価手法の確立	2年	松村 宏	高エネルギー加速器研究機構	A	過去のマニュアルの内容にとどまらず、手法の標準化の段階まで進めることを期待する。	継続
原子力・医療従事者等の標準的な水晶体の等価線量モニタリング、適切な管理・防護はどうあるべきか？～水晶体被ばくの実態から探る～	2年	横山 須美	藤田保健衛生大学	B	医療施設における調査は特に重要と思われるため、更にデータを増やすことが望ましい。原子力施設との比較を行うためにも、分担者間の連携を強化すべきである。	継続
水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究	2年	千田 浩一	東北大学	B	線量については、specificな値をとるのではなく、できるだけ多くの病院でのデータを追加すべきである。	継続
内部被ばく線量評価コードの開発に関する研究	4年	高橋 史明	日本原子力研究開発機構	A	他機関の研究者との意見交換が望まれる。	継続
原子力事故時における近隣住民の確実な初期内部被ばく線量の把握に向けた包括的個人内部被ばくモニタリングの確立	3年	栗原 治	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所	B	福島事故での教訓を取り入れるため、地方自治体からの意見聴取をおこない、新しいモニタリングシステムの標準化を目指していただきたい。	継続

事故等緊急時における内部被ばく線量迅速評価法の開発に関する研究	3年	谷村 嘉彦	日本原子力研究開発機構	B	現場で実際に利用できる実効的なシステムを構築することを期待する。	継続
眼の水晶体等価線量評価に用いる線量計の試験校正手法の開発	2年	加藤 昌弘	産業技術総合研究所	B	研究期間内での標準場の確立を確実に遂行すべきである。	継続
環境モニタリング線量計の現地校正に関する研究	1年	黒澤 忠弘	産業技術総合研究所	C	目的及び必要性に対する議論を再度行うべきである。	(1年)
「放射線業務従事者」としての「指定」の在り方に関する検討:原子力施設等と医療施設の比較	2年	草間 朋子	東京医療保健大学	B	膨大なデータの分析方法及びまとめ方に工夫が必要である。	継続
放射線防護研究分野における課題解決型ネットワークとアンブレラ型統合プラットフォームの形成	5年	神田 玲子	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所	A	長期ビジョンを確立するため、年度計画に縛られることなく、柔軟に進めていただきたい。	継続
健全な放射線防護実現のためのアイソトープ総合センターをベースとした放射線教育と安全管理ネットワーク	5年	篠原 厚	大阪大学	A	既存の枠にとらわれることなく活動の幅を広げることが望ましい。 また、現場に根付いた課題をネットワークとして共有していただきたい。	継続

* 評価基準： A：一層の推進を期待、B：現状通り実施、C：計画を修正して実施、D：中止すべき